

とくいく「禅語」十八

■ 随所作主 立処皆真

(ずいしよにしゅとなれば りっしよみなしんなり)

「どんな場所でもどんな状況でも流されることなく、自分自身を見失わなければ、いつでもどこでもそこに真理が存在する」という意味です。これは臨済宗の開祖、臨済禅師が弟子たちに語ったと伝わる禅語の一つです。

「主と作れば」というのは、己自身、自分自身が自分自身らしくあることということを意味します。「立処皆真なり」はどこでも全てが真実であるという意味です。もっと噛み砕いて言えば「あなたがどこにいても周りに振り回されずに自分自身の純粋な心を忘れることなく、精一杯の行動をすれば、どんな環境にいようとも人生の真理、生きる意味が見つかるでしょう」ということです

しかし、「言うが易し、やるが難し」で「随処に主と作る」というのが実に難しいのです。いつ何時も自分が自分らしくあると言うことの難しさ、自分をしっかりと持っていないと、どうしてもブレてしまう自分がいる事に多くの人は気付かされるのではないのでしょうか。

サッカーの元日本代表でキャプテンを務め、ワールドカップ3度の出場経験を持つ長谷部誠選手（現在ドイツリーグ・フランクフルト所属）は何かに悩みそうな時、いつもこの言葉を自分に投げかけるそうです。「尊敬する人生の先輩から贈っていただいた言葉」で、この言葉と出会ったのが、ドイツリーグ1部のヴォルフスブルクに所属中、彼のサッカー人生で最大級の試練に出くわしていた時のことでした。いくら好調をアピールしても試合に出られない。それどころか、ベンチ入りさえもできない。遠征メンバーからも外される。その原因は契約を2年残しながら、憧れであったプレミアリーグへの移籍を志願したことでした。結局その移籍は成立せず、残留することになり“裏切り者”とドイツでも日本でもバッシングを浴びる中、彼は音を立てることなく日々練習していました。

“干された”選手が、フィジカルやメンタルの面で戦闘態勢を保っていくのがいかに困難であるか、計り知れないくらいの苦労であったと思いますが、何故そんな状況であっても心が折れなかったのか。それはいつも胸の中に“随所作主 立処皆真”という言葉があったからだそうです。「そこで今できることを全力でやること以外答えはない」

「うまくいってない時や苦しい時にどれだけ頑張れるかでその人の価値が決められると思う」と語っています。あの壁があったからこそ、今の長谷部選手がいるといっても過言ではないでしょう。

私たちも日々の暮らしの中で職場や学校、家庭、人間関係で突如として思わぬトラブルや事故、災難に直面するかもしれません。昨年から続くコロナ禍がまさにそれでしょう。マ 都県では緊急事態宣言が再延長されるという未曾有の事態に見舞われる中、さまざまな情報が錯綜しています。何を信じ、どうすればいいのか分からず焦ってしまい、自分自身を見失ってしまいそうになるかもしれません。

だからこそ、あちこちに気持ちが走ってしまわないように確固たる「自分」を持つこと、それが最大の武器になります。

どんな場所でも自分を持ち続け、誰にも左右されることのない境地、それこそが「強さ」となり、自分自身を支えてくれる自信に繋がり、より良い未来を切り開いてくれるのです